

報告 第1回学校運営協議会 報告

審議事項	意見等
<p>防災イベントに参加して</p> <p>各委員の感想・意見</p>	<p>○避難所に行けない人にとって、車を避難所の代わりに利用するというのもいいことである。車はとても利用しやすい。しかし、実際はどのくらいの日数生活できるものなのか。せいぜい2～3日ではないか。</p> <p>○ソーラー発電はとても有効であると感じた。補助の対象になってほしい。福祉施設などではとても必要なものである。市と交渉したいと思った。</p> <p>○今後、子どもたちの登下校や子どもたちの居る場所について、離れたところからでも確認できるシステムがあるとよいと思った。</p> <p>○災害用品はどんどん進化している。それらを学校にどう組み入れるかである。</p> <p>○電源は必需品である。バッテリーの重さはもう少しどうにかならないかと思った。</p> <p>○東日本大震災の時に、社員が避難する際に、障害のある人同士がペアになり、例えば知的障害の人と肢体不自由の人というペアを組み、避難した経験がある。</p> <p>○電源の確保は、災害時の課題である。電気の供給システムが是非欲しい災害時に電源の確保ができるシステムが必要と思っている。バッテリーの使用については、今回のイベントをきっかけに、電源の供給について学校及び関係者で共有していきたい。</p>
<p>学校評価</p> <p>今年度の目標に関する意見</p>	<p>○目標設定について、学校を動かしているのは教員だけではない、事務や介助員などの目標があっても良いのではないか。校内の事故報告の方法については、事故を起こした人が報告するのでは問題は解決しない。その横にいた人がどうしたのかがさらに重要になる。気になることをそのままにしない姿勢と報告を受けた時の当事者意識が必要であり、集団浅慮があってはいけない。授業改善については、主体的・対話的で深い学びをぜひ進めてほしい。自主的と主体的の違いは意識してほしい。主体的とは、障害の重い軽いには関係なく、やるかやらないかを自分で決める、やりたいと思い取り組むこと、それに対し自主的とは、すでに決まっていることを進めることであり、それをやりたいと思って取り組むだけではない。対話的とは、友達との関係だけでなく、教員や物とも会話をするということ。授業改善に結び付けるシステムを構築してほしい。授業改善アドバイザーを置く、略案は必ず提出するなどが、システムの中身としてあるとよい。</p> <p>○事故防止について、本人の責任だけに焦点を当てては防げない。みんなが頑張っているというだけでも防げない。防ぐためのシステムの構築、環境の設定、人のかかわり方、これらを重要な要素と見なくてはならない。主体的・</p>

	<p>対話的で深い学びという考え方は、福祉も同じといえる。意思決定事業と重なる。利用者（生徒）が主体的であるために、支援者が応答的であることが必要である。その奥に、本人の肯定感を育てることにつながる、養護学校は、小学部から高等部と長い時間がある。時間をかけて取り組んでほしい。</p> <p>○授業改善について、企業の立場からすると、小学部段階から取り組むべきことがある。卒業した後どう生きていくかを想定してほしい。知的障害の人は、学校時代に英語を習わなかったと言っている。就職して自社に入り、英語を学ぶ意欲に満ちている人がたくさんいる。パソコンや iPad を使った学習をあきらめないでほしい。コミュニケーション能力の向上や自分の感情をコントロールする授業があるといいと思う。</p> <p>○主体的・対話的で深い学びを提供するとは、主体的・対話的で深い真備を導く体験を提供するという。子どもたちの理想の姿を想定しながら教育することで、主体的な対応が可能になる。知識だけでは無く、第三者的な目でみれる様なシステムができればよい。</p> <p>○身体障害の方に対し、リハビリにどの位時間を掛けているのか。社会に出ても改善がみられるため、早いうちからリハビリを行う事で、機能改善が図れるのではないかと</p> <p>→OT、PT、ST、心理などの専門職からアドバイスを受け、体への取り組みを行っている。</p> <p>○地域の定義について、地域とはどこなのか。学校の考える地域とは？</p> <p>→本校は、寒川、茅ヶ崎、藤沢、病院であり、子どもたちは、地域から来て地域に帰っていく。</p> <p>⇒地域の側として学校に対して思うことは、学校はセンター的機能を持っているので、主導で進めてほしいということである。</p> <p>○教員及び保護者の心の疲労について、どのように管理されているか</p> <p>→県では、ストレスチェックの取り組みがあり、自分のストレスについて確認したり管理職が管理するシステムや勤務時間管理システムもある。また、個人面談を実施している。</p> <p>→保護者のストレスチェックは、電話相談などで対応したり、市役所などへ繋いでいる。</p>
	<p style="text-align: center;">防災イベント第二部は、学校運営協議会の委員3名が参加</p> <p>神奈川トヨタモビリティー ウェルキャブ室 T氏</p> <p>アウトドアは最大の防災であり、家族だけで安心して避難できる場所。車を使った楽しみ方と、防災を提供して。</p>

<p>防災イベント 第二部 ディスカッション 参加者の意見</p>	<p>神奈川トヨタモビリティ ウェルキャブ室 K氏 地域の皆さまに信頼いただける企業を目指している。皆さまに合った車選びの提案をさせていただく。</p> <p>トヨタ自動車 EHV 電力変換ユニット設計部 医療機器のメーカーと連携している。災害発生時にどこへ行けば給電が可能か（充電ができる）をマップ化している。ウェルキャブ車の機能に対するご意見が欲しい。</p> <p>TKグループ K氏 ウェルキャブ車への要望としてHV車への設定がなかったので需要に応じ検討する。</p> <p>太平電気 ソーラーパネルを使った充電を提案させてもらっている。ソーラーパネルを使い、どんな充電ができるかを1軒ごとに個別に提案させていただく。また、医療機器に応じて保障可能なバッテリーを作っている。</p> <p>浜之郷小学校 校長 日常生活の中で防災について考えていく必要を感じた。災害が発生したら、現地に行かなくても浸水状況などセンサー窓でデータが提供される仕組みなどの必要を感じた。ライフサポートカーについてもこういった備えがあるとよいと感じた。</p> <p>茅ヶ崎市役所 防災課 7月3日の大雨では、市内に土砂崩れが多数発生した。民間の企業と協定を結ぶことで、被害の拡大を防いでいきたいと思う。</p> <p>トヨタ自動車 アウトドア担当 災害が発生した時、アウトドア用品が非常に有効だと感じている。新たに購入しなくても、今あるものの点検見直しをしてほしい。今回展示したテントは、遮光性、耐久性、面積を優先したが、実際に必要なものを調べて選んでほしい。</p> <p>トヨタモビリティ神奈川 どんな人でも平等に移動手段を提供していきたいと30年前から考えてきた。要望、需要の多い部分から着手している。今後、茅ヶ崎養護学校モデルなどの特別な仕様製品を実現したい。前向きに進んでいきたいので意見交換をお願いしたい。</p> <p>こども医療センター HDr. 災害は非日常のことなので、アウトドアをマッチングすることは当然のこと。ハザードマップで自分のところは何を使っていて、何が必要かを理解したほうがよい。医療機器や人工呼吸器など電源供給が必要な危機に対し、</p>
---	---

必要とする供給スタイル（電圧や電流、コンセントの形状・・・）や必要量を知ってほしい。電源がない場合の対処方法も。災害発生時の排泄についても必要性を検討すべき。

ダイニチ

車から家庭へ電源を繋ぐ提案を行っている。災害が起こった時には自助が大切。自分で自分の身を守ることが重要。

富士ソフト企画

自社の従業員の9割は障害のある人である。避難訓練は重要と考えている。

茅ヶ崎養護学校 校長

百間は一見しかず。実際の車を見て、目から鱗が落ちた。学校の防災グッズについては、地域の皆様と連携をとりながら、進めていきたいと考えている。医療機器、人工呼吸器など使われている方々がトヨタに行けば、プリウスから電気が貰えるなどといったインフラ作りも進めていきたい。ご協力いただいた企業のみなさまに感謝している。本日はイベントにご参加いただき、ありがとうございました。